



「みらい造船」の完成予想図

「みらい造船」起工

気仙沼 新団地 19年春稼働



東日本大震災で被災した気仙沼市の造船会社4社が設立した「みらい造船」の新たな造船団地の起工式が21日、同市朝日町の現地であった。市が造成する新しい工業用地に集約移転して2019年4月の稼働を目指す、国内の漁船漁業を支える。

式には国や県、市の関係者ら約120人が出席。みらい造船の木戸浦健欽社長が「うれしい思いとともに責任も感じる。震災から苦



入会金
年会費
大学生講師
ガナシ。

アップル
0120-26-9841

編集局報道部
☎ 022(211)1127
☎ 022(224)7947
【総支局】
石巻 石巻市千石町

労はあつたが、4社の合併やたくさんの方々の支援を力にしながら、会社名の通り『みらい』が感じられる造船所に育てたい」と述べた。

造船施設は、市が国の津波復興拠点整備事業を活用して用地買収と造成をする敷地4・1秒に建設。国内で30例目となるリフトで船舶を引き入れる「シップリフト方式」を導入する。従来より効率的な建造や修繕が可能となり、約200トのサンマ漁船を10隻同時に作業することができると

が地盤沈下したため本格復旧が難しく、15年5月に設立したみらい造船を受け皿会社にして将来合併し、新天地に移転することで地元造船業を守る。

4社が手掛けるのは最大500トクラスの漁船が中心だが、みらい造船では700トまで対応し、大型マングロ船や官公庁向けの船舶も建造していく方針。

事業費は105億円。うち70億円は国土交通省の補助金を活用する。敷地には10社以上の関連業者も事務所を構える。

4社は同市浪板地区で被災した木戸浦造船、吉田造船鉄工所、小崎造船鉄工所、沢田造船所。震災で現在地



東日本大震災で被災した。共

県長沼ボート場 五輪誘致問題

2020年東京五輪・パラリンピックのボート、カヌー・スプリント会場の代替候補地となっている県長沼ボート場(登米市)を巡り、21日の県議会常任委員会で質問が相次いだ。議員からは県が試算した150億〜200億円の整備費と、財源の一部に東日本大震災復興基金を充てることに関し、異論が出た。

総務企画委では議員6人が

「財源示せ」なぜ復興基金

県議会常任委で質問相次ぐ

質問した。整備費と財源の内訳を示す部に対し、みやぎ遊佐美由紀氏(青)は「財政見直しをしなければ県民の理不尽だ」と指摘。藤原白(同)は「いきなり復興基金の活用は、共産党県議